

風待ち海道倶楽部

キーワード：エコツーリズム大学 多様な主体の協働

活動地域：島根県隠岐郡隠岐の島町

活動地域概要：

隠岐の島町が位置する島後は、島根半島の北東約80kmの海上に位置し、隠岐諸島中最大の島、人口1万7千人。島の外周は151km(宍道湖外周の約3倍)面積は242.97km²(琵琶湖の約36%)で、面積の約80%を森林が占めている。島はほぼ円形に近い火山島で、雄大な海洋風景や急峻な山並み等が風光明媚な景観を醸し出している。縄文時代には、有数の良質の黒曜石が産出され貴重な産地であったことから、北陸地方や大陸までの海上交通が開かれたと云われている。奈良時代から平安初期にかけては、渤海外交の中継基地として大陸文化の伝来に大きな役割を果たし、中世以降は遠流の島と定められ多くの貴人、文化人が配流され彼らが伝えた都の文化は、今なお伝統芸能や行事の中に確実に伝承されている。



団体・活動概要：

歴史的資源や豊かな自然環境によって隠岐は観光地として賑わってききましたが、近年観光客は減少し、島の玄関口の商店街にも空き店舗が目立つようになってきました。それまで様々なまちづくり団体が個別に行ってきた活性化活動をより効果的にするために、官民一体となって団体を設立しました。実績活動は、朝市、港を活用した結婚式、歴史講座、ライブ等イベントを中心とした取り組みです。継続的な活動で住民に隠岐の良さや価値を改めて確認してもらう活動として、2004年度からエコツーリズム大学を開講しています。助成対象活動では、エコツーリズム大学の講座内容をさらに充実させ、講師も運営も住民で行いました。また、島のPRとして、関東と関西で出張出前講座を行いました。将来は、住民の有償ガイドが講座で得た様々な情報を活用して、観光客に隠岐をわかりやすく面白く伝えることを目指しています。



風待ち海道倶楽部

設立：2003年 メンバー総数：73名

代表者：吉岡陽子

連絡担当者：野辺一寛

連絡先：〒685-8585 島根県隠岐郡隠岐の島町城北町1番地 隠岐の島町役場建設課内

TEL：08512-2-8564

FAX：08512-2-2460

E-mail：Nobe-k0123@e-oki.net

ホームページ：http://kazematikaidou.gozaru.jp

1 団体の活動目的とこれまでの経緯

(1) 目的

多様な主体の協働による、隠岐ならではの歴史・文化・自然を活かしたまちづくりの実現

(2) 経緯

これまで様々なまちづくり団体・グループが個別に取り組んでいた各種活動を、より効果的に実践し隠岐の活性化を図るために設立された任意団体

隠岐の島町は、島根半島の北40～80kmの日本海に点在する隠岐諸島の中で最も大きな島「島後(どうご)」にあり、石器時代における黒耀石の産出に始まり北前船の風待ち港として栄えた江戸時代まで、日本海交流の拠点として文化的、経済的に大きく繁栄してきました。

また、聖武天皇の時代(神亀元年724年)に遠流(おんる)の地として定められてからは、小野篁、後鳥羽上皇、後醍醐天皇が配流(はいる)され、隠岐の文化形成に大きな影響を与えたとされています。この歴史的資源や、昭和38年に大山隠岐国立公園に指定された豊かな自然環境によって、隠岐は観光地として賑わってきましたが、近年のニーズの変化や離島という地理的条件による旅費の高さから観光客数は年々減少しています。

島の経済を支えてきたもう一つの柱である公共事業費も財政状況の悪化から削減され、島の玄関口である隠岐西郷港周辺の商店街には空き店舗が目立つようになってきました。

沈みゆく島をなんとかしようと、これまでにも様々な団体・グループによって活性化の取り組みが行われてきましたが、連携がなく個別に取り組んでいたため成果が得られず「何をやってもだめ」「やってもしょうがない」といった諦めのムードがまち全体に広がり、「島が沈んでいくのを見守るしかできな

い」といった声まで聞かれるようになっていました。

このような状況の中、隠岐ならではの歴史・文化・自然を活かした地域づくりを行いたいという思いを持った人々が集まり、平成15(2003)年5月に「風待ち海道倶楽部」というまちづくりグループが結成されました。倶楽部名は、隠岐が北前船の風待ち港として栄えたこと、隠岐の歴史・文化が海の道を通して伝わり、また伝えられたことから命名しました。

これまでの倶楽部の活動は、西郷港周辺の商店街の活性化と新たな観光資源の創出を目的に、西郷港に通じる国道485号線を通行止めにした「風待ち海道おおぞらいち」の開催や、西郷港の仮設浮き桟橋を舞台とした「人前結婚式」の開催、高速船の待合所を使った「みなとの音楽堂」「みなとの体験工房」などイベントを中心として行ってきました。



みなとの体験工房

しかし、「隠岐だからこそできる継続した活動は出来ないだろうか?」「本当の隠岐の魅力が知られていないし、島に住んでいる自分たちも本当の隠岐について知らない。隠岐について気軽に勉強できる場所が作れないだろうか?」という意見が倶楽部員から出され、隠岐の地域学講座「風待ち海道エコツーリ



風待ち海道おおぞらいち



人前結婚式

ズム大学」を平成16年度(2004)年度から開校しています。

風待ちとは、暴風雨から避難する意味だけではなく船出をするために適した風を待つことの意味も含まれていることから、北前船で栄えた頃の賑わいを取り戻すために「(まちづくりの)風を(自分たちで)起こして、風に乗ってゆこうよ!」を合い言葉に活動を行っています。

2 活動の内容

(1) 知られざる日本の記憶が息づく島「隠岐」

隠岐には島に流された後鳥羽上皇や醍醐天皇だけではなく歴史や、雄大な自然の造形美だけではなく自然環境がありません。

隠岐はユーラシア大陸の一部であった時代、湖の底であった時代、海の底の時代、島根半島の先端の時代と形を変えながら、今から約2万年前に現在のような離島になりましたが、それぞれの時代を示す地層・地質が島のいたるところで露出し、道路わきでも島の成り立ちや日本列島の成り立ちを推測することができます。

隠岐を代表する岩石であり石器時代に矢じりとして利用された黒耀石の産地は国内で50箇所ほど知られていますが、矢じりとして使用されたのは隠岐を含めて6箇所しかありませんでした。隠岐産の黒耀石が日本海沿いの国内はもとより、約2万年前に遠くは朝鮮半島やロシア沿海州地方のウラジオストク、ナホトカまで運ばれていたことが遺跡調査によって判明しています。

隠岐産の黒耀石が良質であったため古代の生活には欠かせない石であったことが想像されるとともに、当時の盛んな人・文化交流の道も見えてきます。

隠岐は対馬暖流の影響を受けることもあり、生物の北限の地、そして南限の地でもあります。隠岐の特徴として北方系・南方系・高山性・大陸系・氷河期時代の生き残りの植物が共存し、北方系のモミノキに南方系のナゴランが着生して自生するなど、他の地域では見ることでできない不思議な島でもあります。

隠岐は今から約2万年前に現在のような離島になり、地理的変異や進化の過程において隠岐固有の生き物も生まれました。他の離島に比べると固有種の数も少なく、生物学的に近年まであまり注目されなかった島ですが、他の島より若いのが故にこの約2万年の経過が生物にどのような変化を

与えたのかなど、進化の過程を探るうえでも貴重な島であるとも考えられます。

(2) 風待ち海道エコツーリズム大学の開校

このように、隠岐にはまだまだ知られていない歴史や自然環境が隠されていて、近年のエコツアーに代表されるような体験型、より専門性の高い修学的観光へ対応できる資源が豊富にあるのですが、そのことが隠岐に住む人にも知られていないし活用されていないのです。「島を訪れた人に隠岐の本当の姿が分かってもらえていない」「住んでいる島の人が隠岐の素晴らしさ、貴重さを認識していないため、隠岐



第6回海洋コース海藻アート作成



エコツーリズム大学開校式



講師による概要説明

を伝えられない」という想いから、島の活性化を行うためにはまず島に住む人に隠岐の素晴らしさを知ってもらうことから始めたいと考え、隠岐を再認識するための講座「風待ち海道エコツーリズム大学」を2004年度から開校しています。

2005年10月8日から開校した「風待ち海道エコツーリズム大学2005」にも、歴史学科、自然環境学科陸上コース、自然環境学科海洋コースの3講座を設け、その内容も多岐にわたるものとなりました。

歴史学科ではこれまでと違った角度から隠岐の歴史について調査・研究することを主題として、歴史の中で光っていた隠岐の四つの宝物、隠岐騒動と隠岐の学問についてなど今まで聞いたことのないような講義が行われました。

陸上コースでは、隠岐の固有種についての解説や多様な植物が入り交じる隠岐の特徴についての解説を行うとともに、地層・地質の解説などアカデミックな内容も盛り込まれました。

海洋コースでは、隠岐は海藻類の特別天然記念物であるクロキヅタの分布地域でもあり、隠岐が2004年9月に国際的に重要な干潟や湖沼などの湿地保全を目指すラムサール条約湿地の候補地に国内で唯一外海域の海藻藻場として選定されましたが、ほとんどの人がクロキヅタやラムサール条約という言葉さえも知らなかったことから、ラムサール条約についての講義のほかクロキヅタなどの海藻ウォッチング、海藻を使った押し葉アート作成、ウミホタル観察会、磯の生物ウォッチングなど誰もが楽しめる内容となりました。

このエコツーリズム大学の開校にあたり、風待ち海道倶楽部のメンバーで隠岐の自然環境の調査・保護を目的に活動を行っている「隠岐自然倶楽部」や、特別天然記念物のクロキヅタの調査・保護活動を行っている「隠岐クロキヅタ保全倶楽部」、隠岐の歴史や民族研究を行う「歴史民族研究会」による検討

委員会を立ち上げ、大学のカリキュラムや講師選定、運営方法について検討を重ねました。

検討会の中で特に意見が出されたのが、大学の講師と運営方法、そして隠岐の自然環境の保護についてでした。これまでのように、島外から著名な人を招いて講座を行うような人任せでは効果が得られないという意見と、本気になって自分たちで大学を運営しないと継続した活動とならないという意見が大半を占め、本当の隠岐を知ってもらうためにも講師も運営も島の住民で行うこととしました。

また、隠岐の貴重な自然環境を守るためには、情報発信をせずにひっそりとそのまま残していくのが最も良い方法だという意見もだされました。隠岐の固有種、貴重種が不法に採取されている現状の中、風待ち海道エコツーリズム大学で更に情報を与えれば不法採取が一層増える事が予想されるという意見でした。

しかしながら、島に住む人が隠岐の歴史、自然環境の貴重性や重要性を認識していないため貴重な昆虫や植物を採取していることや、島外の人が採取していても気にも止めない現状を目の当たりにすると、まずは島に住む人に隠岐の素晴らしさを認識してもらうのが必要だと考えたのです。



第1回陸上コース ガイド研修



第2回陸上コース 化石発掘

風待ち海道エコツアーリズム大学実施スケジュール

開催日	講座名	講師名	講座内容
H17. 8.27	シーヤックがけ 養成講座	永田 宣裕 西村 千尋	A E Dを用いた救命方法講習とシーヤックの操作方法および救助方法の実技指導の実施
H17.10. 8	エコツアーリズム大学開校式		各講座の講師紹介と講座内容のガイダンスの実施。
H17.10. 9	第 1 回海洋コース	新井 章吾 宮崎 勤	国指定特別天然記念物加賀ツタに焦点をあて、隠岐の海洋環境の多様性についての解説。海藻を使った海藻アート作成会の実施。
H17.10.15	第 1 回陸上コース	八幡 浩二	隠岐の島町東側海岸コースを使い、ガイド研修の実施。
H17.10.29	第 2 回海洋コース	幸塚 久典	参加者が作成したウミホタル採集器を用い、中村海岸においてウミホタルの採集及びウミホタル観察会を実施。
H17.11.18	第 3 回海洋コース	小江 克典	代表的海の発光生物であるウミホタルについての解説と発光実験を行った。
H17.11.19	第 2 回陸上コース	河野 隆重	道路法面や海岸線をフィールドとして化石発掘会を実施。海岸線では淡水性の貝化石や波の紋様の化石など、隠岐が湖の底であったことを証明する化石を発掘した。
H17.11.24	第 3 回陸上コース	八幡 浩二	陸上コースの集中講座として、隠岐の自然環境全般における講座を開催した。
H17.11.27	第 1 回歴史コース	斉藤 一志	町内に保存されている遺跡および出土品を見学しながら、旧石器時代からの隠岐の歴史についての解説を実施。
H17.11.30	第 2 回歴史コース	村尾 秀信	歴史集中講座として、時代の中で光っていた隠岐の四つの宝物についての解説。

H17.12.4	第4回陸上コース	八幡 浩二	隠岐の島町西側海岸線コースをフィールドとして、植物・岩石等の解説を行いながらガイド研修を実施。
H17.12.8	第4回海洋コース	幸塚 久典	隠岐の海洋環境集中講座として、日本海の特徴と海洋生物についての解説。
H17.12.10	第5回海洋コース	宮崎 勤	隠岐の島町蛸木海岸をフィールドとして、磯の生物採集と観察会を実施。
H18.1.29	第5回陸上コース	田中 功元	隠岐で見られる野鳥の解説と野鳥観察会の実施。
H18.2.19	第6回海洋コース	幸塚 久典	蛸木海岸をフィールドとして、海藻の採集と海藻を使った料理の試食会および海藻アートの作成会の実施。
H18.2.26	第3回歴史コース	常角 敏	町内の遺跡、城跡、合戦場跡をまわり、隠岐の戦国時代についての解説を実施。
H18.3.4	第6回陸上コース	八幡 浩二	陸上コースの総合まとめの実施。
H18.3.12	第7回海洋コース	幸塚 久典	海洋コースの総合まとめを実施。
H18.3.19	第4回歴史コース	斉藤 一志	隠岐騒動（隠岐維新）に関する遺跡、展示施設をまわり、幕末に起きた隠岐維新についての解説。



第3回歴史コース 隠岐の戦国時代と城跡



第4回歴史コース 隠岐騒動と隠岐の学問

3 活動の成果

2005年度実施した「風待ち海道エコツーリズム大学」には延べ300名の参加者があり、本事業の実施によって隠岐に対する意識の向上が見られました。2月に実施した隠岐の環境保全に対する意識調査(島民1,000名を対象に実施)においても、約7割の方が隠岐の自然環境保全の必要性を認めており本事業の効果が現れていることが伺えます。

また、本事業の実施によって風待ち海道倶楽部の認知度が高まったことを示す成果として新たに4名の入会があったこともあげられますが、隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村が協働で行う、関東圏・関西圏における隠岐のPRの手法の一つとして「風待ち海道エコツーリズム大学」が採用され、東京大学、関西大学において各2回ずつ「風待ち海道エコツーリズム大学」を実施したことが特筆されます。このことは、これまで隠岐の島町内で開催してきた「風待ち海道エコツーリズム大学」の今後の方向性を検討する上でも大きな成果だと思われま

す。更には、島根県隠岐支庁の依頼により、これまで行ってきた「風待ち海道エコツーリズム大学」の講座資料をまとめた隠岐のエコツーリズムガイドブック「OKIまるごとミュージアム」を隠岐自然倶楽部、隠岐クロキヅタ保全倶楽部、隠岐野鳥倶楽部の協力を得て作成したことは、本事業の実施が他の事業との連携と新たなネットワークの構築を生み出し広く展開出来たことを表しています。

4 活動資金

本事業実施の活動資金についてはH&C財団からの助成を受け実施しましたが、本事業以外での活動(東京大学・関西大学での講座開催及びガイドブックの作成)については、島根県および隠岐の島町からの依頼により実施しました。

今後の活動および活動資金の確保については、「風



東京大学でのエコツーリズム大学 矢じり作成

待ち海道エコツーリズム大学」をより広く展開し、より地域に密着した活動とするために、公民館活動として活動を継続することを現在検討中です。町内80箇所ある公民館の内30箇所を選定し、年10箇所での開催を目標に企画を作成中ですが、このことは本事業の成果の一つとしてもあげられます。

また、プロガイドの養成を行うための「風待ち海道エコツーリズム大学」の実施については、参加者からの費用負担を徴収する予定です。



東京大学で開催されたエコツーリズム大学で挨拶するメンバー

隠岐を伝えてください

歴史学科

「1 隠 時代の中で変っていた
隠岐の四つの宝物」

講師 齊藤 一志 氏

隠岐と言えば渡人の島。これまでは島に流された夜鳥羽上皇、後醍醐天皇にまつわる歴史だけが紹介されてきましたが、違った角度から隠岐の歴史を発見してください。黒曜石での矢じりづくりも体験できます。

自然環境陸上コース

「2 隠 知られざる日本の記憶が
息づく島「隠岐」

講師 八幡 浩二 氏

隠岐は外輪山を有する火山島であり、石器時代に矢じりとして利用された黒曜石の産出地です。地層・地質からみた島の成り立ちや、北方系・南方系・高山性・大陸性・水河階時代の植物が共存する不思議な隠岐の解説を行います。

自然環境海洋コース

「3 隠 隠岐の海洋生物」

講師 幸塚 久典 氏

隠岐は対馬暖流とリマン寒流が交わる地点であることから、海洋生物の北限の地、南限の地です。海産物の特別天然記念物クロキヅタの分布地でもあり、2004年9月には隠岐諸島周辺沿岸が、ラムサール条約の候補地に国内で唯一外海境の海産産場として選定されました。隠岐の豊かな自然環境を、海洋生物の面から解説します。

12月20日
火

13時～17時

場所：東京大学
本郷キャンパス山上会館
2階 大会議室
入場料です！

お問い合わせ
風待ち海道倶楽部事務局 野田 一真
TEL 08512-2-0564 (隠岐の島町建設課内)
TEL 658-0565 島根県隠岐郡隠岐の島町城北町1番地
<http://www.kazematikaidou.gozaruru.jp>

エコツーリズム大学 in 東京大学の案内

5 課題

風待ち海道倶楽部の活動は隠岐の島町の活性化を目的に活動を行っていますが、隠岐の島町を含む隠岐は四つの有人島からなり、隠岐と言った場合殆どの方が一つの島であるとの印象を持っています。このことから、風待ち海道倶楽部の活動としては隠岐の島町だけではなく、隠岐全体としての活動としていくことが必要であり求められていると感じています。

また、現在風待ち海道倶楽部は任意団体として活動を行っていますが、今後の活動資金の確保と自立した活動とするために、NPO法人化等も検討する事が必要となっています。

6 今後の展望

「風待ち海道エコツーリズム大学」をより地域に根ざした活動とするために、公民館活動と連携し出張講座として各地域の公民館で開催することを検討していますが、これまで行ってきた講座主体の内容からより参加しやすく具体的な活動とするために、環境美化活動と連携し隠岐の固有種・貴重種の再生活動も行う予定です。

また、隠岐の島町（隠岐島後地域）を中心として行ってきた活動を島前地域（西ノ島町、海士町、知夫村）にも広げ、隠岐全体として「風待ち海道エコツーリズム大学」の開催を行う予定であり、島前地域での開催によって集められたデータをもとに更に内容を充実させたエコツーリズムガイドブックの作成も予定しています。

本年度試験的に行った東京大学・関西大学での出張講座では、隠岐出身者の方から「隠岐の出身でありながら、初めて聞いた内容ばかりでとても楽しかった」「これまで隠岐についてどのように説明して良いのかが分からなかったが、今回の講座を受けて隠岐の説明が出来るようになった」という感想を多

くの方からいただき、旅行エージェントを含めた隠岐出身者以外の方からも「これまで知らなかった隠岐の魅力を感じられた」という意見を多数いただきました。

本当の隠岐の魅力を島内に発信するだけでなく、島の住民の言葉によって積極的に島外に向けて情報発信することの必要性を改めて認識することができたので、今後は関東・関西圏だけではなく、中国地方、九州地方に向けての情報発信をしたいと強く感じています。



空き店舗を活用した交流サロン
「風待ちスタジオ」